

# 人間の経済

第2期 第 **22** 号 (通巻100号) 2005年5月30日刊

## 目次

週刊マーケットレター (05年5月30日週号)  
主要マーケット指標  
過去10年の日本の平均経済成長率は+0.3%  
曾我 純

ワットの夢  
森野 栄一

金は探すところにあり  
森野 栄一



# 週刊マーケットレター（05年5月30日週号）

2005年5月29日

曾我 純 jsg@syd.odn.ne.jp

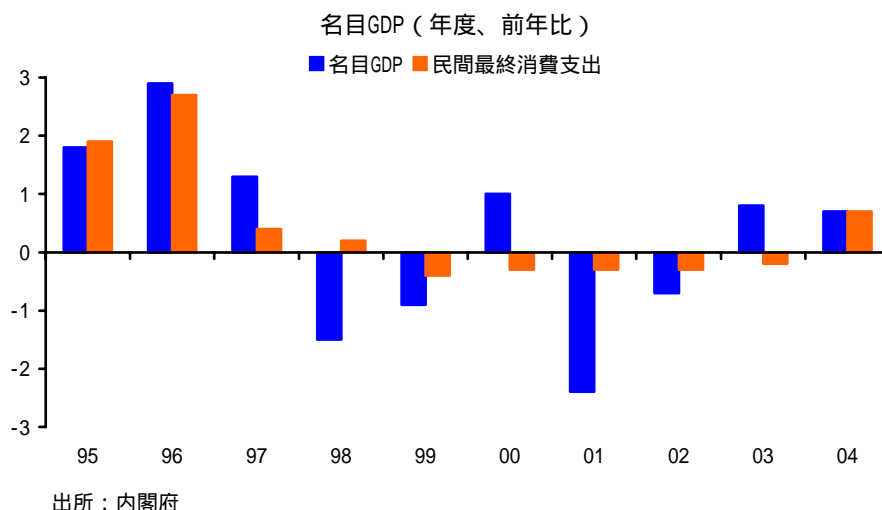
## 主要マーケット指標

| 為替レート             | 5月27日（前週）          | 1ヵ月前     | 3ヵ月前     |
|-------------------|--------------------|----------|----------|
| 円ドル               | 107.95(108.15)     | 105.85   | 105.25   |
| ドルユーロ             | 1.2585(1.2560)     | 1.2930   | 1.3245   |
| ドルポンド             | 1.8240(1.8270)     | 1.9060   | 1.9185   |
| スイスフランドル          | 1.2315(1.2345)     | 1.1915   | 1.1630   |
| <b>短期金利（3ヵ月）</b>  |                    |          |          |
| 日本                | 0.05375(0.05500)   | 0.05438  | 0.05188  |
| 米国                | 3.33000(3.29000)   | 3.19000  | 2.91000  |
| ユーロ               | 2.12531(2.12388)   | 2.13000  | 2.13481  |
| スイス               | 0.75000(0.75000)   | 0.75833  | 0.75250  |
| <b>長期金利（10年債）</b> |                    |          |          |
| 日本                | 1.250(1.265)       | 1.260    | 1.425    |
| 米国                | 4.07(4.12)         | 4.22     | 4.26     |
| 英国                | 4.38(4.38)         | 4.55     | 4.76     |
| ドイツ               | 3.32(3.37)         | 3.41     | 3.70     |
| <b>株 式</b>        |                    |          |          |
| 日経平均株価            | 11192.33(11037.29) | 11005.42 | 11658.25 |
| TOPIX             | 1132.34(1129.81)   | 1130.30  | 1167.33  |
| NY ダウ             | 10542.55(10471.91) | 10198.80 | 10841.60 |
| S&P500            | 1198.78(1189.28)   | 1156.38  | 1211.37  |
| ナスダック             | 2075.73(2046.42)   | 1930.43  | 2065.40  |
| FTSE100（英）        | 4986.3(4971.8)     | 4789.4   | 5006.8   |
| DAX（独）            | 4444.71(4360.68)   | 4189.02  | 4348.64  |
| <b>商品市況（先物）</b>   |                    |          |          |
| CRB 指数            | 300.89(293.28)     | 305.88   | 300.23   |
| 原油（WTI、ドル/バレル）    | 51.85(46.80)       | 51.61    | 51.49    |
| 金（ドル/トロイオンス）      | 419.8(417.4)       | 433.0    | 434.9    |

## 過去 10 年の日本の平均経済成長率は+0.3%

日本の株価は長期金利の低下で支えられている。今期の予想配当利回り（東証 1 部、加重平均）は 1.25%と長期金利と同じであり、長期金利がさらに低下するならば、株式の優位性が高まるだろう。日本の経済成長率は明らかに低下しており、長期金利はいずれ 1%を再び割り込むはずである。経済成長率の低下は当然、収益の伸び率を引き下げ、配当も現状を維持できなくなるであろう。

05 年 1 - 3 月期の名目 GDP は前年比 0.0%と 2 四半期連続で低下し、04 年 1 - 3 月期の 3.2%増から大幅に鈍化した。04 年度では 0.7%と 03 年度並みの成長を維持でき、2 年連続のプラス成長となった。だが、過去 10 年の成長率をみると、96 年度が 2.9%増加し、最高を記録しているが、これは消費税導入による駆け込み需要によるものであり、これを除けば、95 年度の 1.8%が最高である。過去 10 年の平均成長率は+0.3%にすぎず、過去 5 年に限ればマイナス 0.1%になる。人口減と高齢化の要因により、向こう 10 年の経済成長率が過去 10 年を下回る可能性は大きく、日本の長期経済成長率がプラスを維持することは難しいの



ではないか。長期期待成長率がマイナスになる可能性が高いことは、予想株価収益率（現在 17 倍）はまだ高いということである。

経済成長率が低迷しているのは消費が伸びないからだ。04 年度も民間最終消費支出は GDP と同じ 0.7%増加しただけである。03 年度まで 5 年連続のマイナスと不振を極めていたが、04 年度の伸び率は 1%に満たなかった。過去 10 年の平均最終消費支出の伸びは+0.4%であり、過去 5 年ではマイナス 0.1%になる。高齢化と人口減、さらに年金給付の制限、増税等、個人消費を萎縮させる政策が目白押しであり、個人消費の収縮は止めどなく続き、マイナス成長が常態化するであろう。

向こう 10 年の平均経済成長率がマイナスになれば、04 年度の GDP（505 兆円）が 500 兆円を割り込むことになり、その少なくなった GDP を現役と年金生活者で配分することにな

る。高い名目経済成長率を前提に算出した年金改革は「絵に描いた餅」になり、これからの年金は大幅にカットされるであろう。年金不安などから、年金受給者や将来の年金受給者の消費性向は低下し、現役世代に加え高齢者の消費も低迷すると予想される。

過去の日本の経済成長から将来を予想すると、長期金利は依然高く、株式は割高である。こうした日本経済の動きを察知してか、外人の投資スタンスは株式よりも債券に移ってきている。外人の日本株買越額は4月、1,397億円に縮小したが、債券の買い越し額は1兆9,246億円に急増し、5月も21日までに債券をすでに1兆7,137億円買い越しており、外人の債券重視の投資姿勢が目立ってきた。

円ドルレートは、米長期金利が予想外に低下しているが、日本の経済成長率の低下によって、日本の長期金利の低下余地が米国よりも大きいと予想されることから、円安ドル高の流れが持続しよう。4月の貿易黒字（季節調整値）は前月比20.4%減の7千億円台と03年3月以来25ヵ月ぶりの低水準に落ち込んだことも、輸出企業のドル売りを弱めるはずだ。3月、前年比プラスとなった数量指数は4月、1.5%減と再び前年割れとなり、外需によって経済が支えられるような情勢ではない。日本の経済成長率の急激な減速が、外人の日本への投資姿勢の修正を迫っているといえる。

# ワットの夢

森野 榮一

## 生活の幅の広さ

ワットについてよく話題にされるテーマに、他の地域通貨を使用してる方々からよく聞かれるのですが、どちらがよいのかというものがあります。

そこでこう答えています。私たちの生活の幅は地域通貨やワットを使う関わりよりも広いものです。地域通貨を活用される方々も、当然のように円貨も使っています。つまり生活の広がりの中に、ごく親しい関係者だけが交流を深める地域通貨のような仕組みもあれば、人が信頼の環を繋げていくワットのような関わりもあります。要は個人が使い分けていけばいいのではないのでしょうか、と。いずれも人のなす取引の決済をなす仕組みですから、いわば生活にとっての用具です。用具・道具の利点・欠点は使う人がどのような状況で使おうとして、どう判断するかによっています。

ですから、よく各地にみられるような地域通貨でなければできないこともあるでしょう。もちろんワットでなければできないこともあるわけです。じぶんの生活のシーンで、地域通貨がふさわしいときも、ワットがふさわしいときもあるでしょう、と。当然にも、円がふさわしいときもあるのです。ですからそのときは私たちは円を使っています。

## ワット、自由でオープンな空間へ

しかし、例えば、Letsのようなクローズドな地域通貨の仕組みに参加されている方々は、時として、円とLetsの点数との関係はあまり問題にしないのに、ワットのような仕組みの場合は問題にな

る場合があります。なかま作りに一生懸命だからでしょうか。なにか別の仕組みの地域通貨があると、自分たちの共同体を浸食するやもしれぬ、歓迎せざるものとして受け取られることもあるようです。それもワットのように責任ある団体が手がけているようにはみえない、アメーバのようなネットワークは不思議にみえるようです。

しかし、世の中と生活の広がりの中なかでは、仲間は固定的ではなく、いつも出来ていて、また分解しもしているのです。自由でオープンがなによりと考えている人はワットを選ぶことが多いでしょう。そうでなく不自由ななかの親しさに価値を置きたい方もいるでしょう。そういう方は会員制の地域通貨を選ぶかもしれません。どちらがよいとか悪いとか、優劣をつけるという性質の問題ではないでしょう。

ワットを使う人々はけっして他の地域通貨ではだめで、ワットだけがいいなんていわないでしょう。ワットにおいてとか、来てくださるとか、袖を引いて誘うようなこともしないでしょ。なにを活用するかは、その人が判断するものだからです。しかもワットはそうした自分で判断する個人をなにより尊重する仕組みです。しかし、対照的に、ワット以外の地域通貨の中なかには自己中心的とする同心円の拡大あるいは会員拡大に熱心なところもみかけます。

これに反して、ワットを使う人はワットを使うだけで、ワットについてあまり語りません。もっと他に語りたいたことが山積しているかのようです。しかし、語らずともワットは雄弁なのかもしれません。自由を求める人々にとっては。

そうしたワットの友は、他の地域通貨のスタン

スを、チラリと横目に見て、おそらくは「あらやあね」と軽く一瞥することでしょう。中心はじぶんにしかなく、他者もまた中心と考えているからです。

#### 選択肢のある豊かさ

円貨もまた、人を誘うようなことはしませんね。もちろん法律が代価としての受領を義務付けた法定通貨だから、法律が担保になっていますが。

人の自由な選択のなかで円貨と競合しうる力を作っていく可能性があるもの、それは円貨と同様に自由でありながら、円貨ではなしえぬ、信頼の蜘蛛の巣を形成できるワットであろうと私は考えています。円貨の力から我が身を守るなら、閉ざされた空間のなかで親しい者たちが共助の関係をつくる他の地域通貨もよいでしょう。

要するに、私たちはただ、選択肢をもちはじめただけなのです。

そしてワットは円貨と会員制型地域通貨の世の中に、それらとは違った開かれた、自由な、それでいて人々がネットワークを形成し、信頼を重畳させる異空間を出現させたのです。誰もその境位に踏み込めと理屈は並べません。アリスになるのは、そう、あなたなのです。加盟しきれないほどの地域通貨に参加しているあなたも、アリスになれる。そこにはひとを自由にする魔法がいくつも存在していきます。使われはじめた、wija+iWATもそのひとつです。

円貨のうえに多様な取引手法が築かれているように、円貨と同様に、しかし、別空間で共通基盤となったワットのうえにも多様な取引と人が関わりの合う手法が成立していきます。

#### 円に跪く

先般、地域通貨と称するものをひとつみてきました。たんなるチケット式のものにすぎませんが、こういうものも地域通貨と呼び始めているのですね。

#### 仕組は

まず会員を募ります。

会員になるには会費を支払います。

会員は 1000 円をだしてチケットを購入します。

会は会員同士の助け合いにこのチケットを使わせません。

会は会員がチケットをもってくると、割引引いて買い上げます。

割引引いた分は会の収入とし、運営費にあてます。

チケットが何度も使われると、出口で儲けをださねばならない(つまり円貨による買い上げ時に割引引くことによる収益)ので、それが少なくなりますから、チケットの利用は一度限りに限定。

というものです。

なんのことはない、虫のいいプリペイドの仕組です。チケットが循環しないほど利益が上がりますから、地域通貨と称しながら、通貨とはほど遠いものとなっています。

こうした仕組は必ず、入口か出口、あるいはその両方で円貨を稼ぐことをします。もちろん中途でも稼ぐ手法もあります。

これを複雑にし、工夫をこらしたシステムはいろいろありますが、そこに共通しているのは、円貨に頼っているということです。

つねに円は磐石で、最後はみな円貨をみています。これを隠し込む理窟に、地域通貨は補完通貨で円貨を傷付けるものではないという言い方が使われます。

円貨の機能不全を補うという理窟で円貨を集めているのです。

ここでは円は常に優位を保っています。人は円に跪いているとしかいえません。

円を補完通貨に

ワットは違います。ワットも複数通貨のなかのひとつです。しかし将来、円には第一ヴァイオリンはひかせなくする状況を創りたいと思い描いています。ワットは円を参照しません。逆に、願わくば、円がワットを参照せざるをえない時代を作りだしたいと思っていますのです。

重要なのは地場における実体経済がより高度な域内循環を作りあげることです。円の日蔭の花であるような地域通貨はこれには十分にはなしえないでしょう。間接的な効果はあるでしょうが。

ワットは数ある通貨のなかで円に依存せず自ら光る星であろうとしています。受動的に国民通貨という太陽によって光る影のような存在であることを望んでいません。円こそが補完通貨であるべきなのです。ワットはいつか、それを実現するかもしれません。各地で、ワットは相互支援型の社会経済関係を作り始めています。ささやかに複数通貨の状況を作り出し始めているともいえます。

ワットという支配的機構をもたない自己制御系はその空間をもちはじめました。それはリアルな実体経済のなかに存立しはじめたのです。円やドルなどの通貨が作り出す空間のように、現実から遊離しながら、現実を支配する寄生的空間を、いつの日か、日蔭へと推転していくために。

願わくば ワットがいつか 円貨をば 割り引くその日 我ら自立す



# 金は探すところにあり

森野 榮一

あいかわらず、地域通貨がうまくいかない、取引が活発ではないけどどうしようというお話を聞きます。

そもそも、「そんなものめんどくさい」という声も聞きます。

まあ面倒くさいといえば、息をしているのも面倒くさい、そもそも生きているのも面倒なことばかりだということになりますから、まあよいとして、やはりなぜ活発でないかは考えておきたいですね。

結局、地域通貨を使おうが、通常通貨を使おうが取引というものは売り買いですし、モノ・コトのやりとりと決済に違いはありません。

そこで、ずいぶんと昔、若い時分にセールスをしたときに、先輩に聞いた話を思い出します。(昔は労働の現場で若い者に、あ～、こいつもこんな業界に入ってきたのかと思い、若い同類になにかを教える先達というものがいましたが、最近は少なくなっただけでしょうか…まあ、それはそれとして…)

お前、全然売れてねえそうじゃないか、一生懸命やってるのかい。

え～、がんばってはいるんですが…あそこは回るようにと言われたところも行ってますし、さほど自分が嫌われるような人間でもないと思ってますが…一生懸命考えて訪問先も選んでいるんですが…

そうかい。う～ん。

お前なあ、こ～いう話を知ってるかい。有名な話だ。探鉱師といって、そう、金鉱を探すような、いわば山師の話だな。

はい。昔はずいぶんいたと…

まあ、この国の話じゃない。ある国で、金(きん)を探すのを商売にしていた探鉱師が、それをやめてセールスマンになった。広い原野や、砂漠、山のなかで仕事していた奴がセールスなんかできるのかというのがみなの見方だった。

ところが、その彼がまあ、成績がいいんだ、よく売ってくる。みんな目を見張った。そこで、みなが聞いた。「販売成績をあげるなにか特別なコツでもあるのかい。あったらぜひ教えて欲しい」と。

彼曰く。「なあ～んも特別なことはしてません。ただ、キンを探していたころと同じようにしているだけです。」

それはどういうことなんだい？

探鉱師仲間では有名な言葉があるんですよ。「金は探す所にあり」って。

？

それはですね、金は何処にでもあると疑ってあらゆる場所を探さなきゃならないということです。あの山には金はないだろうと思っても、とにかく

探してみる、大きな金鉱脈は大概そうして発見されました。私は販売のことはなんにも知らないですから、金探しと同じようにとにかくあらゆるところに販路を探しました。

金は探すところにあり！

WATML より

お前、この話の意味がわかるかい？

人間ってのは、意識しなくても、それぞれに善悪好悪があるもので、あ～、あそこはダメだと、はなから予断で判断したり、思いこんだり、場合によっては決めつけたりしているもんだ。どこかに自信をもってなきゃ人間をやってられないから、当然でもあるんだが、これが禍するわけさ。思いこみがね。ましてやそれが自信や成功体験に裏打ちされたものだとは始末が悪い。未知の客を見逃させるんだ。

お前は考えすぎている、勉強もしすぎだ、愚直に歩けよ。

そうですね～。そういわれれば、理由をつけてあそこはダメとか最初から相手にしないところも多かったです。宝を見逃していたんですねえ。

人間というのは、染みついた性癖というのはなかなか直るものではありません。なんとも変わりにくいものなのですが、これが思考のスタイルや嗜好の在り方になるとひとしおでしょう。

そういう人間が交流し、上交下接する（あ、いや地域通貨は上下関係はありませんから左交右接（左と交流し右と接する）わけですから、善悪好悪入り交じり、各自の思いこみや決めつけ、予断などが混交し、なかなか、行き違いの多く、お互いにたからを見逃しあうということになる可能性があります。

お互いが人という宝を見逃しあってしまう…。人とは付き合ってみよ、と。通りすがりに行き交うだけでは金鉱脈は見つからないのでしょうか。そのために必要な山師の格言。



編集・発行 **ゲゼル研究会**

221-0021 横浜市神奈川区子安通3-321森野榮一気付

Gesell Research Society Japan <http://grsj.org/> [info@grsj.org](mailto:info@grsj.org)

Gesell Research Society Japan all rights reserved 許可無く複製・再配布を禁ず